

★ ★ ★
Made in Kushima
逸品ストーリー

奇跡の6本が変えた運命

グアバドリンクと宮崎果汁と



桃を思わせる
まろやかな
味わい

果肉たっぷり
トロ～リ食感

6本だったグアバの木は、今では80本に。
年間10トンも収穫できるようになりました。

「グアバを宮崎の新たな特産品に」。昭和53年、県内43軒の農家がその想いを胸に、グアバの栽培を開始。その中に、宮崎果汁の代表取締役・大迫幸二さんはいました。「宮崎の温暖な気候であれば枯れることはない。そう聞いていたのですが」。その冬、強烈な寒波が到来し、苗木は壊滅状態に。500本の苗木のうち、生き残ったのは幸二さんがハウス内に植えていた6本だけでした。

残された6本は、その後グイグイと成長し、鈴なりに実を付けます。意気揚々と市場に持っていったものの、需要がないからと取り引きしてもらえませんでした。

「こんなにおいしい果実を食べてもらえないなんてもったいない」。そう思った幸二さんは、グアバをビュレ状にして某一流ホテルに持ち込みます。すると、香り・味・色合い、すべてにおいて素晴らしいと絶賛されました。

その後、知人の薦めもあり、ドリンクを開発。数え切れないほどの失敗と試行錯誤を繰り返し、催事で1日100本以上を売り上げる人気商品になりました。

「まだまだグアバドリンクは進化の途中です。お客様の声に真摯に耳を傾けて、品質を突き詰めていきたい」と息子の成長さん。苦しいときの支えになったという、お客様の「おいしい」のひとことに応え続けられるよう、大迫さん親子のドリンクづくりは続きます。